

まちづくり推進協議会 公開会議開催概要

日時：平成28年3月29日（火）18：00～20：00
 場所：女川町まちなか交流館ホール

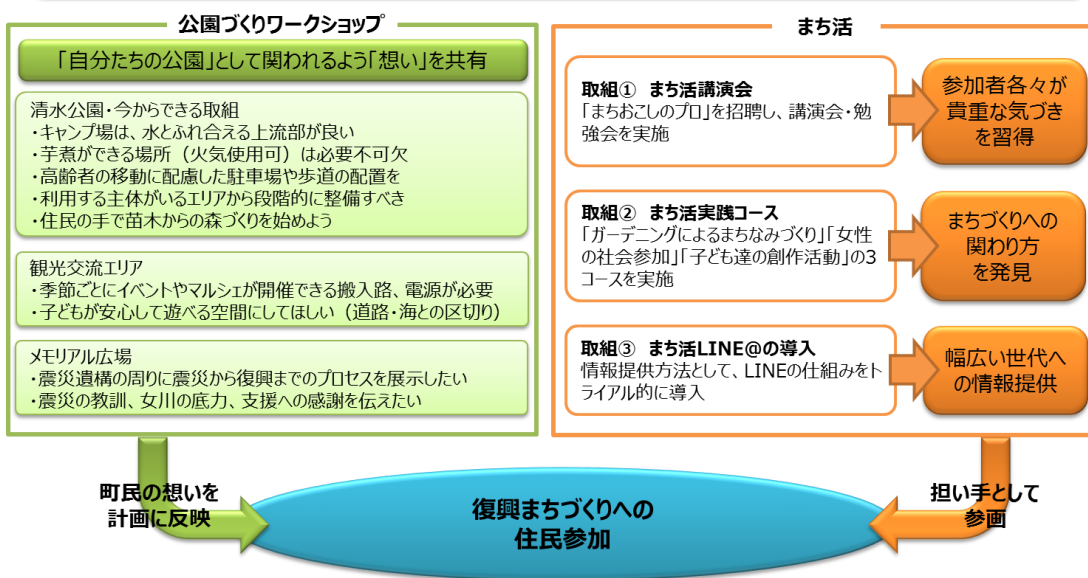
平成27年度の住民参加によるまちづくりの総括・報告の場として、公開形式によるまちづくり推進協議会を開催しました。当日は、町内の主要団体代表者、公園づくりワークショップ参加者、まちづくりデザイン会議委員、町職員、その他多数の出席者が一堂に会し、活発な意見が交わされました。

■平成27年度住民参加によるまちづくり事業報告

26年度：「まちカフェ」などの参加しやすい場作りや、町内で活動を実践する「まちの先生」の紹介を通じて、まちづくりへの住民参加の入口を拡大

発展

27年度：住民活動の舞台となる清水公園や観光交流エリアの計画に町民の声を反映させる「公園づくりワークショップ」新たな活動の始動につながる実践的な講座などを実施し、まちへの多様な関わり方を提案、新たな担い手を発掘



■公園づくりワークショップ参加者からの報告

清水公園、観光交流エリア、震災遺構それぞれについて、参加者から「想い」や「気づき」を報告してもらいました。

■清水公園の楽しみ方（発表者：澤田洋美さん）



- 清水公園でしかできないものを優先して実現してほしい。
- 公園に来た人誰もが「思いっきり」身体を動かして楽しめる場所になってほしい。
- 世代を通じてずっと利用できる公園になってほしい。そんな公園になるよう、自分も皆さんと一緒に公園を作っていく。



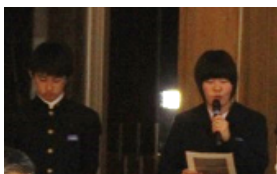
■観光交流エリアの楽しみ方（発表者：持田耕明さん）

- 観光客の視点で考えると、誰もが気軽に会話して挨拶するような「フレンドリーな港町」になってほしい。
- 一方、観光事業者としては、ごみの散乱、釣り客による吸殻、ゴミのポイ捨て等のマナー面と、駐車場不足は課題と認識。
- 是非、観光桟橋周辺のマナー向上に協力をお願いしたい。

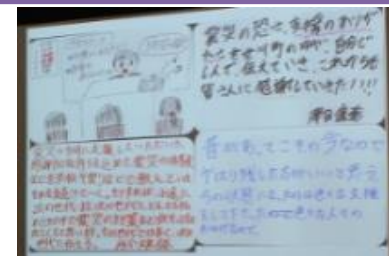


■震災遺構と次世代に伝えること

（発表者：女川中学校 山田くるみさん、河合雄弥さん）



- 旧女川交番を残し、津波の恐さ、防災の大切さを後世に伝えていきたい。
- 世界中の支援のおかげで今の町がある、その感謝を世界中の人たちに伝えたい。



■意見交換と協議結果

会場からの意見

協議会のコメント

【清水公園と観光交流エリアの整備について】

- 観光交流エリアに滞在型宿泊施設の設置を
- プロムナードの延長上に桟橋があると、そこで完結してしまう。女川湾を広く活用できるような整備をお願いしたい。
- 海岸線が潮の満ち引きで変わるなど、子どもたちが水に触れられる工夫はどうだろうか。
⇒ 岸壁があるため、このエリアでの実現は難しいと考える。
- 「女川町丸ごと公園構想」のコンセプトには賛成。
- くどける水辺には、他の地域に負けない立派なトイレを。

- ワークショップや本日の意見交換でも、様々な意見が出ている。
- そこから実現できること、できないことをしっかりと精査して、住民の想いが十分に反映された公園整備を進めてほしい。

【震災遺構を保存する意義について】

- 旧女川交番は、幸いにもそこでお亡くなりになった方はいないこともあり、個人的には遺構として保存しても良いと思う。
- ワークショップでは、遺構の周りに震災から復興までのプロセスを展示するなどの意見も出ており、復興の原点としてポジティブかつ元気が貰える場所になると思う。

- 震災遺構を保存する意義については理解した。
- 旧交番は、これから立ち上がっていく女川町の原点として、象徴的な意味も帯びてくると考える。

【町民が主体的にかかわる今後のまちづくりについて(事務局提案)】

- 新たな暮らしの舞台で取り組みたい活動テーマをヒアリング等で丁寧に抽出し、テーマ毎にチームづくりを進めながら、住宅地や公園を「自分たちの空間」として協働して住みよい場所にする活動を展開していく。

- 復興のスピード感を意識しつつ、さらなる住民参加が促進されるよう事業を進めてほしい。

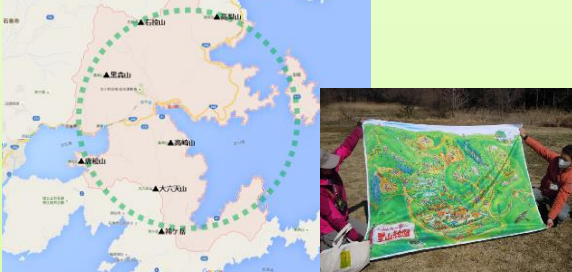
■まちづくりデザイン会議委員からの講話

「与えられる公園から使いこなす公園へ ～女川町丸ごと公園構想試案～」

（清水公園検討部会 宇野健一 部会長）

- 行政主導で一気に作り、誰にも使われない公園でなく、住民が参加し使いながら作る公園を目指そう！
- 女川の魅力は海だけではない。女川の山と川をつなぐことで、女川の魅力をさらに高める「女川町丸ごと公園構想」を提案したい。
- 最近では、公園の一部の営業権を民間団体に貸し出し、営業利益を運営管理に使い、公園及び周辺エリアの価値向上の試みもある。

女川町を取り巻く大きな緑の環／七山



都立野山北・六道山公園(約200ha)のみんなで作った里山絵図

「海と暮らすまち、その水辺のすがた」

（シンボル空間検討部会 小野寺康 部会長）

- 海の見える風景、生きた海的生活は、そのまま女川の景観資源であり、それらが女川の風景を作っていく。
- 水辺には、休日にイベント会場に変わる駐車場、海の魅力で稼げる空間など様々な要素があってよいのではないか。
- レンガみちやメモリアル公園のそばに子供が安心して遊べる遊具公園があるといい。



マルセイユの港町のイメージ

